神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Concluding remarks

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2003-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福嶌, 教隆, Fukushima, Noritaka メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1034

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

結　び
Concluding remarks

福　嶌　教　隆
Noritaka FUKUSHIMA

『外国学研究』本号は、2002年度「日本語話者のスペイン語習得に関する研究」班の2年にわたる研究の報告書である。同研究班は、本学助教授モンセラット・サンス（Montserrat Sanz）助教授（代表者）と同教授福嶌教隆の2名で構成されている。

本学イスパニア学科では、近年、効果的な教育法の開発をめざしてグループを作り、体系だった研究を開始した。そのさきがけとして、ひとまず小回りのきく少人数のサブグループを作り、基礎研究を行うこととした。それが本研究班である。

本研究班では、日本語を母語とする者がスペイン語を外国語として学ぶ際に生じる諸問題を、心理言語学的観点および対照言語学的観点から分析し、スペイン語教育の改良を試みた。心理言語学的問題をサンスが担当し、対照言語学的問題を福嶌が担当し、意見やデータを十分に交換しあった上で、本報告書を作成した。また折りよく、スペインのロジャー・シビット（Roger Civit）さんが、2003年度から研究留学生（国費外国人留学生）として本学に在籍し、「日本におけるスペイン語教育」を研究しているので、さまざまな面で同氏の協力を得ることができた。

本報告書は3章からなる。第1章では、主題についての総論を述べ、スペイン語教育についてこれまで蓄積されてきた貴重な知見を、まとまった形で提示した。第2・3章では、日本語話者によるスペイン語の言語産出（production）と理解（comprehension）の両面について、その習得過程の詳細を、アンケートや実験を通じて心理言語学的に分析した。

当初は、このあとに福嶌教隆が執筆する第4章を掲載することを予定してい

た。第４章は「スペイン語接続法の教育方法について」と題し、スペイン語教育の具体例の１つとして、動詞の接続法の教育に焦点をあて、考慮すべき諸問題の所在を指摘し、解決の可能性を示唆するものである。しかし紙幅の都合上、この章は本報告書から省き、『神戸外大論叢』第54巻第７号（2003年）に同名の論文として発表することにした。これを含め全体として、「めざす主題の基礎研究」という所期の目的をひとまず達成できたのではないかと考える。

本報告書は英語と日本語で書かれている。即ちSanzが執筆した「はじめに」と第２・３章には英語が用いられ、福嶌が担当した第１章と、この「結び」は日本語で記されている。また、スペイン語の例文には英訳または和訳を施し、第１章で引用された文献のうち、標題がスペイン語で記されているものについては全て和訳を付している。これは、本報告書のささやかな成果をスペイン語教育者のみならず、広く一般に公開し、その批判を待ち、あるいは利便に供しようという意図の現れである。

本研究班およびイスパニア学科では、今後もより良い教育を追究する努力を続けていきたい。その最初の試みとしての本報告書が、日本語話者を対象とするスペイン語教育の改善に少しでも寄与するところがあるなら、望外の喜びである。

最後に、本研究班に対してこのような研究の機会を与えて下さった神戸市外国語大学ならびに外国学研究所、またアンケート・実験に協力してくれたロジャー・シビットさん及び本学学生諸君に心からのお礼を申し上げます。